

8-4-36 システム改善専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) システム改善専門委員会の開催

会員企業の多くが、業務品質の確保や向上を目的に品質マネジメントシステム（以下、QMS と略す）の認証を取得し運用しているが、それぞれに種々の課題を抱えながら運用している。

QMS における日常的な課題を解決するための「業務へのひと工夫」や「DX のアシスト活用」についての改善事例の収集、規格改訂に関する有用な情報の収集などを目的に、令和 6 年度は 12 回の専門委員会（集合 6 回、オンライン 6 回）を開催した。

(2) QMS の効果的運用に資する研究活動

前年のアンケート調査の結果や、セミナー聴講者の意見などから、QMS 運用における会員の要望を整理し、委員所属会社の取り組みを中心に QMS の効果的運用の一助となる事例を収集するとともに、会員企業へのヒアリングから QMS の実効性向上に資すると思われる好事例を発掘した。

上記の活動成果をもとに、会員へ提供する QMS の効果的運用に有用な事例を「業務へのひと工夫（業務のやり方を工夫し QMS の効果的運用へ）」、「DX のアシスト活用（DX の力で、抜け、漏れ、ミスをカバー）」の 2 つの切り口にとりまとめた。

(3) マネジメントセミナーへの参画

マネジメントシステム委員会主催のセミナーに、傘下の専門委員会として参加し、活動を通じて得られた知見を「マネジメントシステムの効果的運用に向けて～業務と密接にかつ効率よく～」と題して講演した。

なお、セミナーでは ISO マネジメントシステム規格へ追補改訂された「気候変動への配慮」や ISMS 規格の改訂概要、アセットマネジメントシステム（以下、AMS と略す）の認証取得組織数の推移や業務インセンティブの動向を紹介した。

また、聴講者から寄せられた多数の意見は、要望や課題等に整理して、次年度以降の活動方針に反映した。

(4) QMS 運用に関するヒアリング調査の実施

会員企業 3 社に対して、対面と WEB で実効性向上のための取り組みや運用上の工夫などを収集した。実効性向上のためにマネジメントシステムと業務の一体化やその具体的効果など、有用な情報収集の場とすることができた。

(5) QMS に関する勉強会

外部から講師を招いて勉強会を実施し、QMS 運用の負担感に関する情報収集を行った。

(6) 会員企業へのアンケート調査

会員企業に対して、ISO 認証取得に対するアンケートを行い 186 社から回答を得た。認証取得の状況や運用時の課題などについて情報収集が行えた。

(7) AMS に関する情報収集

公益財団法人日本適合性認定協会（JAB）で公表される適合組織データを分析し、ISO 55001 の認証組織数の年次推移、認証登録区分や分野の傾向を把握した。

(8) その他

公益社団法人土木学会からの委嘱を受け、令和 7 年 3 月 3 日開催の第 60 回 ISO 対応特別委員会へ委員を派遣した。

2. 次年度の活動について

(1) セミナー参加者意見をもとに、マネジメントシステムの実効性向上に寄与する方策について調査研究を行う。

(2) マネジメントシステムに関するタイムリーな情報を収集し、会員企業への情報配信を目的にセミナーを開催する。

(3) マネジメントシステムの実効性向上に寄与する事例の収集や、会員企業との情報交換等を目的に、ヒアリングを実施する。

(4) 委員会活動の成果をセミナーで発表する。

(5) その他のマネジメントシステムに関する普及動向の調査、分析を行う。

(6) 他団体への論文発表や委員会への委員派遣を通じて交流を図る。

（システム改善専門委員会委員長 岩下 英知）